

Information

助産師が主人公の映画

『ルージュの手紙』

2017年12月、シネスイッチ銀座ほか、全国公開！

配給：キノフィルムズ



©photo Michael Crotto

助産師として働きながら、息子と2人で暮らすクレール(カトリーヌ・フロ)のもとに、30年前に忽然と姿を消した継母・ベアトリス(カトリーヌ・ドヌーヴ)が現れた。規律を守り、他人に尽くす人生を送ってきた自分とは対照的に、自由奔放で他人を振り回すベアトリスのことを、クレールは受け入れられずにいた。しかし、息子の人生にかかわる重大な出来事や、初めて聞く亡き父を思う

継母の本音、ベアトリスを襲う病などをきっかけに、娘と継母の人生が重なり合う。他者と魂を共鳴させることで、心を解放し、新しい自己を発見していくのだった。

プロヴォ監督が主人公を助産師にしたのには理由がある。彼が誕生した時に、分娩介助をした助産師が自分の血液を輸血して、彼の命を救ってくれたのだという。その助産師に敬意を表し、本映画を捧げたと

のことだ。

2017年12月より、シネスイッチ銀座など、全国で公開予定。

【監督】

マルタン・プロヴォ

【出演】

カトリーヌ・ドヌーヴ／カトリーヌ・フロ／オリヴィエ・グルメ／ポーリーヌ・エチエンヌ

公式ホームページ

<http://rouge-letter.com/>